

人文社会科学部 人文社会科学科カリキュラム・ポリシー

■人文科学コース

【教育内容】

1. 人文・社会・自然の各分野にわたる幅広い教養を身につけるために、共通教育科目を配置しています。
2. 共通教育で身につけた幅広い教養を専門分野の知識と結びつけ、人文社会科学の領域横断的・複眼的な思考力を身につけるために、プラットフォーム科目を配置しています。
3. 哲学、心理学、歴史学、地理学、考古学、文学、言語学等に関する専門知識をしっかりと身につけるために、専門科目を配置しています。
4. 時代や地域に固有の文化や、時代や地域を越えた普遍的な人間の特性を比較検討しながら理解することができる力を獲得するため、4年間を通して少人数の演習科目（ゼミナール）を配置しています。
5. 4年間の学修の成果として、卒業論文の作成を必修とします。

【教育方法】

1. 人文科学の成果と課題を批判的に考察する思考力を身につけ、活用できるようになるために、文芸・思想、歴史・地理学の2プログラムを配置し、それらを有機的に学べるように学修ポートフォリオを活用するなどして個別に指導します。
2. 人文科学の研究方法を駆使して、地域文化や地域社会に関する学修・研究の成果を発信することができる力を身につけるために、グループワーク、実習、アクティブ・ラーニング等を取り入れた授業を展開し、自律的な学修を促します。
3. 卒業論文作成の過程では、文献資料や聞き取り資料、データの分析法など人文科学の研究方法を身につけ、さらにその学修・研究の成果を発信できるようにします。

【教育評価】

1. 4年間の学修の成果である卒業論文は、複数教員で審査を行うとともに、卒業論文報告会で研究成果を広く公表します。
2. 授業アンケート、単位修得状況等のデータをもとに、教育内容・方法等の評価を行います。

■国際社会コース

【教育内容】

1. 人文・社会・自然の各分野にわたる幅広い教養を身につけ、基礎的な外国語運用能力を会得するために、共通教育科目を配置しています。
2. 共通教育で身につけた幅広い教養を専門分野の知識と結びつけ、人文社会科学の領域横断的・複眼的な思考力を身につけるために、プラットフォーム科目を配置しています。
3. 外国語の運用能力を身につけ、それに基づきコミュニケーション能力と異文化および自文化への深い理解力を獲得するために、共通教育とプラットフォーム科目に外国語科目を配置しています。
4. 言語・文化・社会への深い洞察力を身につけ、グローバル社会における諸問題を批判的に考察することができる力を獲得するために、コースに専門科目を配置し、それらの専門科目を学修目的に沿って教育プログラムとして編成しています。
5. グローバル社会における諸問題について主体的に判断する力を身につけ、それを活用することができるように、ゼミナールを三年間（二年次から四年次）配置し、必修とします。
6. 4年間の学修の成果として、卒業論文の作成を必修とします。

【教育方法】

1. ゼミナールにおいては、学生一人ひとりの成長を促すため、輪読、ディスカッション、プレゼンテーション、個別指導等の多様な教育方法を取り入れます。
2. 多様な科目群において、ペアやグループワーク、グループ・ディスカッション、実習、アクティブ・ラーニング等を取り入れます。
3. コースFDを開催し、教育課程の点検を行い、改善を図っています。

【教育評価】

1. 3年次のゼミナールにおいては学生の能力の中間的な到達度を測るため、4年次のゼミナールでは能力の到達度を評価するために、パフォーマンス評価を行います。
2. 学修の最終的な成果である卒業論文は、複数教員による審査を行い、卒論報告会等で成果を広く公表します。
3. 授業アンケートや単位修得状況等のデータをもとに、教育内容・方法等の評価を行います。

■社会科学コース

【教育内容】

1. 経済学とその他経営学・会計学・法学・政治学・社会学の専門性を複合的に高めるために、共通教育、専門科目を配置しています。
2. 経済学、経営学・会計学、法学・政治学のいずれか1つ以上の専門性を高めるために、専門科目を群（プログラム）にわけて配置しています。
3. 社会制度や社会問題の課題の解決に取り組むために、4年間を通して各学期に少人数の演習科目（ゼミナール）を配置しています。また、その担当者がアドバイザーとして学生の学修の助言を行います。
4. 4年間の学修の成果として、卒業論文の作成を必修とします。

【教育方法】

1. 少人数の演習科目（ゼミナール）では、学修ポートフォリオやルーブリックなどを用いて学生ひとり一人の形成的な評価のため到達度等についてのフィードバックを行います。
2. 専門性を複合的に高めるために、多分野の教員によるチームティーチングを取り入れます。
3. 社会制度や社会問題の課題に学生が自律的に取り組むことができるようアクティブ・ラーニング等、学生が自律的に学修できる教育方法を取り入れます。

【教育評価】

1. 3年、4年次の少人数の演習科目（ゼミナール）における研究成果である卒業論文に複数教員による審査を取り入れ、卒論報告会で研究成果を広く公表します。
2. 卒業論文の作成過程、審査、報告における評価、その他科目の単位修得状況等から、教育内容・方法の評価・改善を行います。